

みずほマーケット・トピック(2024 年 2 月 16 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、米1月消費者物価指数(CPI)の上振れを受け150円に乗せたものの、その後じりじり値を下げる展開。週初12日、149.21円でオープンしたドル/円は、本邦休日の中、じり安。海外時間は、米金利低下を受け続落してスタートも、ボウマンFRB理事のタカ派な発言を受けた米金利上昇を背景に、149円台前半に反転上昇した。13日、ドル/円は日本株上昇を横目に、149円台半ばでじり高。海外時間は、米1月CPIの強い結果を受け、米金利急騰につれる格好で、昨年11月17日以来となる150円台に乗せた。その後、週高値となる150.88円まで上伸した。14日、ドル/円は神田財務官による円安けん制発言などを受け、150円台半ばでじり安。海外時間は、FRB高官によるタカ・ハト入り混じる発言が意識され、150円台半ばでレンジ推移した。15日、ドル/円は米金利低下を横目に、150円台前半でじり安。海外時間は、米1月小売売上高の弱い結果に合わせ149円台半ばに急落する場面もあったが、米金利が上昇に転じたことを受け、150円台前半に値を戻した。本日のドル/円は、引き続き150円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、米インフレ統計の強い結果を受け下落も、その後は持ち直しほぼ往って来いとなった。週初12日、1.0788でオープンしたユーロ/ドルは、パネッタ・伊中銀総裁のハト派な発言を受けた独金利低下が重しとなり、1.07台後半で上値重く推移した。13日、ユーロ/ドルは、独2月ZEW景気期待指数の良好な結果が材料視され上昇する場面もあったが、米1月CPI公表後には米金利急騰に合わせ1.07付近に急落した。14日、ユーロ/ドルは独金利低下を受け一時週安値となる1.0695に下落したものの、NY時間には、米金利低下が好感され1.07台前半に反転上昇した。15日、ユーロ/ドルはラガルドECB総裁によるタカ派な発言や、軟調な米経済指標を受けた米金利低下が下支えとなり、1.07台後半に上昇した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.07台後半で取引されている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/9(Fri)	2/12(Mon)	2/13(Tue)	2/14(Wed)	2/15(Thu)
ドル/円	東京9:00	149.26	149.21	149.41	150.74	150.55
	High	149.57	149.48	150.88	150.79	150.56
	Low	149.02	148.93	149.23	150.35	149.51
	NY 17:00	149.26	149.37	150.78	150.61	149.91
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0778	1.0788	1.0773	1.0707	1.0732
	High	1.0796	1.0805	1.0803	1.0734	1.0784
	Low	1.0763	1.0756	1.0701	1.0695	1.0725
	NY 17:00	1.0784	1.0772	1.0708	1.0729	1.0773
ユーロ/円	東京9:00	160.96	161.06	160.90	161.36	161.55
	High	161.24	161.09	161.61	161.56	161.63
	Low	160.81	160.39	160.80	160.99	160.94
	NY 17:00	161.02	160.87	161.51	161.57	161.52
日経平均株価		36,897.42	-	37,963.97	37,703.32	38,157.94
TOPIX		2,557.88	-	2,612.03	2,584.59	2,591.85
NYダウ工業株30種平均		38,671.69	38,797.38	38,272.75	38,424.27	38,773.12
NASDAQ		15,990.66	15,942.55	15,655.60	15,859.15	15,906.17
日本10年債		0.72%	-	0.72%	0.75%	0.72%
米国10年債		4.18%	4.18%	4.32%	4.26%	4.23%
原油価格(WTI)		76.84	76.92	77.87	76.64	78.03
金(NY)		2,038.70	2,033.00	2,007.20	2,004.30	2,014.90

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、21日(水)にFOMC議事要旨(1月会合分)が公表予定となっている。会合では、市場予想通り、FF金利の誘導目標を5.25～5.50%で据え置いた。声明文では、「any additional policy firming」とされていた箇所が、「any adjustment」に変更された。引き締めスタンスを取り下げた格好。もっとも、具体的な時期はさておき、利下げを念頭に置いた情報発信になっていることは大きなポイントだ。パウエルFRB議長は、「3月会合までに利下げに十分な自信を持つ可能性は低い」としており、3月会合での利下げは現状見込み難い。もっとも、「労働市場の予期せぬ弱体化が見られれば、より早期に利下げを行うことになる」としており、データ次第で利下げの自信はいつでも得られるということだ。ただ、会合以降の雇用関連統計や物価統計は総じて強いものが多く、情報発信に変化が見られるかに警戒したい。
- 欧州では、22日(木)にECB政策理事会議事要旨(1月会合分)が発表予定。1月理事会では、3会合連続で政策金利の据え置きを決定。声明文では、政策金利がインフレ目標に迅速に回帰させる十分な水準に達しているとしたうえで、今後は十分に制約的な水準で「必要な期間」据え置く、と宣言。注目された利下げに関する情報発信も殆どなく、ラガルドECB総裁は「時期尚早」と一蹴。会合直前のダボス会議で、ラガルド総裁は夏の利下げ可能性について問われ「あり得る」と回答した経緯があった中、ラガルド総裁はその発言を維持すると述べており、夏までに大きな政策修正が想定されないことを確認した。1～3月期の妥結賃金を意識しているようにも見受けられる中、最新の2023年7～9月期時点のデータは、いまだ高止まりしている。もっとも、物価騰勢の落ち着きや、先行する求人広告ベースの賃金鈍化に鑑みれば、妥結賃金も減速に向かう公算が大きい。1～3月期のデータでこういった動きが確認されれば、6月のスタッフ見通し改定を経て、最速7月、順当にいけば9月に利下げという線が見えてくる。

	本 邦	海 外
2月16日(金)	・12月第3次産業活動指数	・米1月建設許可/住宅着工件数 ・米1月生産者物価指数 ・米2月ミシガン大学消費者マインド(速報)
19日(月)	・12月コア機械受注	_____
20日(火)	_____	・ユーロ圏12月ECB経常収支
21日(水)	・1月貿易収支 ・1月工作機械受注(確報)	・ユーロ圏2月消費者信頼感(速報) ・米FOMC議事要旨(1月会合分)
22日(木)	・2月製造業/非製造業PMI(速報)	・ユーロ圏2月製造業/非製造業PMI(速報) ・ユーロ圏1月消費者物価指数(確報) ・ユーロ圏ECB政策理事会議事要旨(1月会合分) ・米2月製造業/非製造業PMI(速報) ・米1月中古住宅販売件数
23日(金)	_____	・独10～12月期GDP(確報) ・独2月IFO企業景況感指数

【当面の主要行事日程(2024年3月～)】

ECB政策理事会(3月7日、4月11日、6月6日)

日銀金融政策決定会合(3月18～19日、4月25～26日、6月13～14日)

FOMC(3月19日～3月20日、4月30日～5月1日、6月11～12日)

IMF世銀・年次総会(4月19日～21日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分)
	本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～進む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分)
	「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外資性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ→利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分)
	FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の読み方～「最後の砦」となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の名目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分)
	1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか
2023年11月14日	ユーロ/円、15年ぶりの高値をどう理解すべきか
2023年11月13日	24年は「家計の円売り」元年になるか～外貨資産の現状～
2023年11月10日	週末版(23年度上期経常収支の読み方～CFベースの黒字は10分の1に～)
2023年11月9日	「欧州の病人」は戻って来たのか？～企業の「ドイツ離れ」～
2023年11月2日	週末版
2023年10月30日	150円台定着を受けて～その背景と今後の論点整理～
2023年10月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇～)
2023年10月26日	ECBプレビュー～利上げ代替としてのMRR引き上げ～
2023年10月23日	サービス収支に透ける製造業の行動変化
2023年10月20日	週末版
2023年10月19日	本邦9月貿易統計～起きるべくして起きた23年の円安～
2023年10月18日	再び直面する天然ガスリスク～ユーロ安考察～
2023年10月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分)
2023年10月13日	週末版(日独GDP逆転について～「弱い円」が原因としても・・・)
2023年10月12日	カネ関連収支でも拡がるサービス赤字
2023年10月11日	赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引
2023年10月10日	円安シナリオを延命させる中東リスク
2023年10月6日	週末版
2023年10月5日	「底打ち懸念」も漂う米経済～米金利上昇の考え方～
2023年10月4日	続・インフレを輸入する日本～「人手不足」の波～
2023年10月3日	ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について
2023年10月2日	インフレを輸入する日本～インフレ持続性の考え方～
2023年9月29日	週末版
2023年9月26日	円安シナリオを長続きさせる貿易赤字
2023年9月25日	日銀金融政策決定会合～マイナス金利解除の行方～
2023年9月22日	週末版
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024年こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか？
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+ α 」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・賃金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門